

熊野町地域公共交通活性化協議会（令和4年度第1回会議）

日時：令和4年5月18日（水） 10:00～11:00

会場：熊野町役場3階会議室



1. 開会

2. 町長挨拶

熊野町副町長 岩田秀次

- ・路線バスの維持が課題になっており、町内の公共交通の維持・活性化を目指している。
- ・本協議会での議論を通じて町の活性化に繋げていきたい。

3. 委員紹介

事務局

- ・各委員を紹介

4. 協議会の主旨等の説明

事務局

- ・協議会の趣旨の説明

5. 議事

（1）会長、副会長選任

神田委員

- ・これまでの熊野町における取組や見識、貢献を踏まえ高井委員を推薦する。

全委員

- ・異議なし

高井会長

- ・神田委員を副会長に推薦する。

全委員

- ・異議なし

高井会長

- ・熊野町は交通利便性や道路整備を長年の課題としていた。おでかけ号の運行開始から10年を迎え、一定の役割は担えているが、公共交通が貧弱な地域である。
- ・全国的にも公共交通の利便性確保や維持が課題となっている中で、このタイミングで熊野町の公共交通に関する計画を作るのは非常に重要なことである。

(2) 熊野町地域公共交通計画の策定について

1) 計画策定の背景・目的

事務局（福山コンサルタント）

《計画策定の背景・目的について資料に基づき説明。》

友田委員

- ・熊野町の公共交通が厳しい状況にある中で、これまでどのような改善や対応をしてきて今日に至ったのか。
- ・阿戸線廃止への対応をどう考えているのか

↓

事務局

- ・過去に阿戸線の廃止の話が出たが、補助金による補填を行うことで現在に至っている。
- ・コロナ禍で利用者が減少し、経営がより一層厳しい状況になったため、阿戸線の機能を残すための議論を熊野町、広島市、広島電鉄で行っているところである。
- ・公共交通は阿戸線のみならず、町全体の問題と捉えているため、都市機能の配置の計画と合わせて、検討していきたい。

友田委員

- ・熊野町域の路線バスは赤字と聞いている。路線バスをどのようにしていきたいのか。

↓

鴨下委員

- ・コロナ前から続く赤字が、コロナによりさらに悪化し、経営努力では困難な状況にある。これまでも幾度も減便を繰り返しており、このような対応を続けていきたくない。
- ・路線バスと生活バスの組み合わせることでよい形になるよう、この議論の中で考えていきたい。

栗原委員

- ・阿戸線は大変な赤字であるが、地域の人に残してほしいと期待している。
- ・認定をうけた事業者が補助を受けると資料にあるが、住民や地域が頑張れば補助を受けられるのか

↓

事務局（福山コンサルタント）

- ・補助の仕組みはいくつかあり、使えるものを検討していく。
- ・住民、事業者、行政が連携して活性化をめざすことが非常に重要と考える。

↓

事務局

- ・現在も補助はでていますが、その他にも使えるものを検討していく。

高井会長

- ・地域住民と町が協力して進めていかなければならない。

2) 地域公共交通に関する実態調査

事務局（福山コンサルタント）

《地域公共交通に関する実態調査について資料に基づき説明。》

栗原委員

- ・アンケート票の属性について、一世帯に一枚配布としているが、住んでいる人は4人いるかもしれない。家族全員を網羅した回答になるということによいか。

↓

事務局（福山コンサルタント）

- ・一世帯に1人の回答を想定している。自動車の利便性を受け入れつつ、公共交通を必要としている人の意見を取り入れた検討をしていくために、公共交通を必要としている人の回答を呼びかけ、重点的に調査していきたい。一世帯に複数枚配布は事務局で検討する。

↓

高井会長

- ・アンケート票について検討する時間が一週間あるため、内容を追加、修正することは可能である。

友田委員

- ・ダイヤの策定の際はどのような協議をしているのか。
- ・次回までの協議会までに路線バスの利用実績は提示いただけるか。

↓

鴨下委員

- ・路線バスは当社の自主運行であるため、当社が独自にダイヤ設定を行っている。
- ・次回の協議会で各便のデータ提出は可能であるため、具体的なものを事務局に言ってもらえれば準備する。

世良委員

- ・萩原まで行かず、熊野営業所止まりとすることを考えていると聞いたことがあるがどうなのか。

↓

鴨下委員

- ・阿戸線のあり方を踏まえて、営業所～萩原間は増便の可能性を検討している。
- ・萩原から先の路線がなくなるということはない。

神田副会長

- ・公共交通は全国的な関心事となっており，国の制度変更に関する議論や報道をよく見かける。路線単独に対する補助ではなく，エリア全体で補助する議論をしている報道も出ている。
- ・バス，タクシーなどの交通手段だけの話ではなく，まちの形や賑わいの関係を含めて考えていかなければならない。今までのように，勝手にバスが走っていたというスタンスではなく，維持・存続も難しいため，町の方々の努力も含めて公共交通を活かして町をどう活性化させるかを国の施策に先んじて検討していきたい。
- ・公共交通というと，鉄道，バス，タクシーだが，この境目がなくなってきており，AI の活用などにより便利になる可能性がある。人口は減少しているが，熊野町であれば公共交通を便利にすることで人口減少のスピードを減速させることができるのではないかと考える。

高井会長

- ・アンケート票は1週間程度を確認期間し，ご意見があれば事務局に連絡いただきたい。

事務局

- ・次回の開催はアンケート調査の集計後の8月を予定している。
- ・アンケートについては来週水曜日までに連絡をいただきたい。
- ・路線バスに関するデータについても連絡をいただきたい。

6. 閉会

高井会長

- ・以上で議事は終了する